



坂下東小学校だより

坂下ひがし

坂下東小学校

令和5年1月31日

No. 18

来年度に向けて

3学期に入り、来年度への動きが少しずつ出てきました。4年生以上の子どもたちは、鼓笛の引き継ぎに取り組んでいます。ここ数年は新型コロナのために練習も十分にできない状況でした。それでも子どもたちなりに、学校の伝統を絶やさないようにと引き継ぎに向けて練習をしています。

また、教員の方も来年度の教育計画作成が本格的になっています。今年度の教育活動を振り返りながら、改善点を話し合い、来年度の計画を作っているところです。授業を進めながらなので、多忙な時期になっています。

2月に入ってくると、今度は新入生保護者説明会や6年生が中学校へ進学するための準備が本格的に始まってきます。

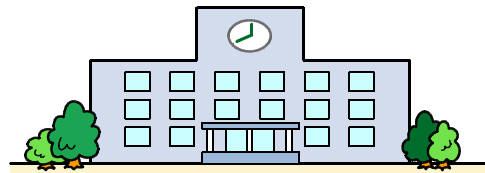
学校の役目は

学校の主たる目的は、学力を高めることにあります。学力といってもペーパーテストで計れるものもあれば、そうでないものもあります。数値化できないものも含めて広く学力と捉えています。その学力を高めるためには、授業の充実を欠かすことができません。ですので、教員が授業を充実させるために資源（時間、労力、予算など）を投入することになります。

今までは、なかなか資源の投入がうまくいかず、授業以外の部分に割かれることが多くありました。それを少しでも本来のものに戻そうとしています。

たとえば、「しつけ」は家庭にお願いします。本来は学校で教えることではありません。箸の持ち方、挨拶の仕方、衣類のたたみ方などは家庭生活のなかで「しつけ」として身につけさせるべきものです。

学校には学校の役割、家庭には家庭の役割があります。それぞれが役割を果たしてこそまっすぐに前進します。



5年2組担任の黒澤理和教諭が1月25日から産休に入りました。代わりに富樫美紀子講師が勤務しています。副担任として大部分の授業を受け持っています。担任は棚木博文教諭が教務主任と兼任します。

学校の課題は？

3学期になって、先生方との面談を行っています。1年間の教育実践の振り返りをしながら、今後の課題についても話し合っています。

多くの先生方から出されているのが「思考力・判断力・表現力」です。学習の成果として「知識・技能」はよく身につけているのです。しかし、「思考力・判断力・表現力」については課題が残るという多くの先生方の意見でした。

であれば、授業を改善していかなければなりません。今までは「先生に教えてもらう」ことが当たり前でしたが、それでは「思考力、判断力、表現力」は育ちません。自分で考え、判断し、修正し、また考え、多くの人々の理解を得るよう表していくような活動が必要です。

ある先生が「先生は教えないからね」といって授業をしていました。このくらいのスタンスがないと、子どもたちの受け身の学習は変わっていかないでしょう。急に変わるわけではありませんが、教育目標にあるように「進んで学習する子ども」を目指していきます。

SNSでのいじめ

子どもたちが、スマホなどのネット接続機材を自分で所有する割合が高くなっています。LINEをはじめとしてネットを使ったいじめ問題も全国的に発生しています。友人関係のトラブルから、悪口に発展し、仲間はずれから精神的な追い込み、やがては自殺まで引き起こしています。人の命を奪う機材になってしまっています。そこで、SNSでのいじめの対応を考えてみましょう。

もし、いじめられたと感じたら

- 悪口を書かれたなどの場면을すぐに保存する。(スクリーンショット)
- 家族の人に相談する。
- 保存した画面を元に、学校、人権擁護委員会、警察等に報告する。

誹謗中傷が厳罰化されました。子どもだから許されるわけではありません。基本的には閉ざされた空間でされているものなので、公にしていくことが自分を守ることに繋がっていくはずです。

逆に、いじめの加害者にしないために

- いじめのニュースがあったら、家族の中で話題にする。
- 「自分がされてイヤなことは、他の人に絶対しない」ことを繰り返して話す。
- 人を蔑んだり、馬鹿にしたりする言動を家族の中でしない。

加害者にしないためには、とにかく他人の悪口や差別を家族の中でしないことが重要です。子どもたちは親の背中を見ています。言ったように育ちません。やったように育ちます。